

志士の公認会計士

久野康成の

「私なら、こうする！」

第37回

非常識な実践経営アドバイス



Question

毎日仕事に追われ続けて自己投資ができません。この生活が続けば、燃え尽きてしまいそうです。

(名古屋市 29歳)

Answer

仕事をコントロールするか、押し潰されるか!?

もし、あなたが主婦なら、「家事が忙しくて自己投資する時間など持てません」というような質問をするかもしれませんね。

世の中は、仕事をコントロール

ルできる人間と仕事に押しつぶされる人間の2つに分かれます。仕事をコントロールできる人間は、自分をマネジメントすることも、他人をマネジメントすることもできるため、立派な管理者になります。

一方、自分の仕事もマネジメントできない人は、他人をマネ

ジメントすることも当然できません。自分が管理者になることはなく、他人から管理されることとなります。

さてあなたは、どちらの人生を選びたいですか？ もちろん、人生をマネジメントするほうでしょう。しかし、「自分は上司でもなく、管理者でもないの自分で思いどおりに仕事を進めることはできない」と思うかもしれません。

では、あなたが経営者であれ

ば、自分の思いどおりに経営ができるようになると思いますか？ 経営者は、限られた経営資源の中で仕事をしなくてはなりません。上司はいなくなりますが、限られた資金、人材をやり繰りしなくてははいけません。制約があるのは、誰でも同じなのです。

家事が忙しくて時間がないという専業主婦も、ハウスキーパの仕事を始めるとプロフェッショナルに大変身します。今ま

で、8時間かけて家事をしていた人が、自分の2倍の広さの家をたった2時間で完了させることができます。つまり、生産性は8倍にアップしたということですね。

このようなプロフェッショナル意識を持ち、発想法の転換をすれば、大きなことが成し遂げられることもあります。私は大学1年の時、憲法のゼミに入っていました。ゼミの担当教授の知人で、香川大学を卒業し、OLになり結婚して専業主婦になった人がいたそうです。その方は専業主婦になって、あまりにも時間をもてあましたため、司法試験の勉強を始めたそうです。そして、短期合格し、何と今では弁護士として活躍されているそうです。専業主婦にならなければ、弁護士になることもなかったでしょう。

上司の「期待の予測」と「仕事の復習」が重要です

人生は、自分で時間のコント

ロールができた瞬間から変わります。私が実践してきたのは、次の2つです。

第1は、「上司の期待」を考えて仕事を組み立てることです。特に、仕事のスピードに対する期待です。経験が乏しい間は、高い品質の仕事をしようと思っても限界があります。品質は、経験を積み上げれば上がります。初めは徹底してスピードにこだわることです。

上司の行動パターンは、2つしかありません。それは、部下を褒めるか、けなすかです。たった2つしか行動パターンがないのだから、褒められるようにすれば良いわけです。そのためには、上司が予測している仕事の完了日より、はるかに早い日に仕事を完了させるように目標設定し、死に物狂いで終わらせます。そして、提出すると……上司は仕事の速さにびっくりしますが、同時に、中身にダメ出しします。

ダメ出しされますが、これは、

上司の知恵を盗む瞬間であり、仕事の方向性を確認する瞬間でもあります。時間はまだ、たっぷり残っています。上司の知恵を貰っているので、簡単に高品質の仕事ができるようになっていきます。提出期限ぎりぎりに持つていけば、ただ怒られるだけです。

とにかく、何が何でも早く仕事をすることです。では、どうすれば早く仕事をすることができるとか？

これが、第2の方法で、「仕事の復習」です。多くの人は、自分が行った仕事を復習することをしません。

仕事に追われているので、次から次にくる仕事をこなすだけです。そのため、同じ方法論を続け、同じように間違え、同じように上司に怒られ続けます。た

った10分でいいから自分が行った仕事の復習をしてみましよう。

そうすれば、どこに不効率があつたのか、どうすれば良かったかが分かります。復習とは、過去を分析することであり、計画を立てるために絶対必要なものです。

多くの人は、実際は計画を立てずに仕事に取り掛かることがあります。忙しい時こそ、立ち止まって考えることです。

(このコーナーでは、経営に関するよるず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)

【プロフィール】

久野康成(くの・やすなり)

公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼 CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。